

新しい時代の学習推進事業研究指定校報告書

- ① 学校名 千葉県立銚子高等学校
- ② 校長名 上 田 有 宏
- ③ 所在地 〒 288-0033 千葉県銚子市南小川町 9 4 3
電話番号 0 4 7 9 - 2 2 - 6 9 0 6
- ④ 地域と学校の特徴

銚子は千葉県の突端に位置し、漁港の町として知られている。平成 1 3 年度に創立 9 0 周年を迎えた本校は、県立銚子第一高等学校（旧県立銚子高等女学校）と県立銚子第二高等学校（旧銚子市立高等女学校）が合併し現在に至っている。各界で活躍する卒業生は 2 万 6 0 0 0 名余、その先輩から受け継いだ伝統を重んじつつ地域に根ざしたその時代にふさわしい学園を目指している。

校訓の尚志（のぞみは高く）・清純（みさおは清く）・明朗（心も広く）は、学問のきびしさに耐えてよき人と自らを育てようと教育実践に取り組んでいる。女子の特性を伸ばしつつ、きめ細かな学習指導・進路指導・生活指導に取り組み、適性の伸長と友情を育て、部活動を重点に社会に貢献できる人材の育成に心がけ、2 1 世紀の男女共同参画社会に向けた取り組みをしている。

平成 1 1 ・ 1 2 年度には同和教育研究指定校として、人権や命の尊さに関する教育にも力を入れている。さらに、訪問介護員（ホームヘルパー）2 級講座を昨年度開講し、昨年度は 3 8 名、今年度は 3 1 名の生徒が全員講座を修了し、訪問介護員 2 級の資格を得た。

- ⑤ 課程・学科・学年別学級数と生徒総数（平成 1 5 年 1 月現在）

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
全日制課程・普通科	1 8 7 名（5 学級）	1 9 2 名（5 学級）	2 1 6 名（6 学級）
全日制課程・家政科	2 9 名（1 学級）	3 3 名（1 学級）	3 2 名（1 学級）
生徒総数	6 8 9 名		



- ⑥ 研究テーマ 「自己の在り方生き方を探り、進路設計への積極的な態度を養う
---学校におけるジェンダー学習の視点から---

⑦ 研究の概要

(1) 目的

- ア 平成15年度からはじまる「総合的な学習の時間」の円滑な実施に向けて、実践研究をとおして、学校・生徒の実態に応じた「総合的な学習の時間」の在り方を探る。
- イ 横断的・総合的な学習をより充実させることにより、各教科・科目の学習における基礎・基本の大切さに気づかせるとともに、生徒の興味・関心に基づく創意工夫を生かした教育活動の展開を追求する。
- ウ 生徒が人権・生命・福祉・性等の課題について関心を高め、自己の在り方生き方を探求し、地域社会の産業・環境等に考慮しつつ、男女共同参画社会における自らの進路について主体的に探求する態度を養い、生涯学習の動機付けとする。

(2) 研究計画

ア 調査研究

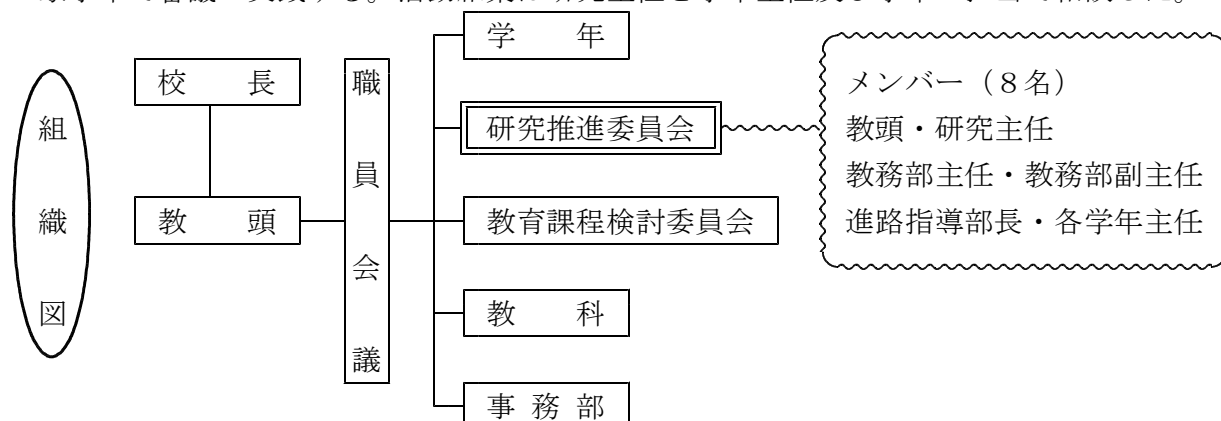
- a 各種研究機関、先進校の取り組み等について調査することにより、時間設定について本校の予定している週あたり均等配当時間及び集中配当時間の効用及び課題について研究する。
- b 校内研修により教職員の共通理解を図り、生徒の興味・関心に基づいた、より効果的な指導と評価について研究する。

イ 実践研究

- a 学年単位、学級単位、及びグループ・ワークによる実践により、その有用性について研究する。
- b グループ・ワークの中で自ら考え、自ら探求し、問題解決力を養う取り組みが、日常の学校生活に及ぼす効果について研究する。
- c ジェンダーについて学び理解を深めることをとおして、自己の在り方生き方を考えることが、進路選択・進路設計に主体的に取り組むことにつながるかを研究する。
- d 進路選択、進路設計へ積極的に取り組む姿勢が各教科・科目の学習に及ぼす有効性について研究する。

⑧ 研究組織

「総合的な学習の時間」研究推進委員会を設置し、円滑な研究推進を図る。設置については、各校務分掌及び教科・科目との綿密な連携を図る。委員会で活動原案を作成し、研究対象学年で審議・実践する。活動細案は研究主任と学年主任及び学年の担当で相談した。



⑨ 対象生徒の課程・学科・学年・学級・人数

全日制課程 普通科 1 学年（5 学級） 1 8 7 名 2 学年（5 学級） 1 9 2 名
 家政科 1 学年（1 学級） 2 9 名 2 学年（1 学級） 3 3 名

⑩ 具体的な年間研究計画

平成 1 4 年度の研究計画

		1 学 年	2 学 年
1 学期	4 月	適性検査 オリエンテーション 進路ガイダンス（年間の心構え）	適性検査 オリエンテーション 進路ガイダンス（年間の心構え） 進路ガイダンス（分野別進路学習）
	5 月	ジェンダー学習	マナー講座
	6 月	人権学習 マナー講座 ジェンダー学習	校外体験学習事前指導 （生徒の希望調査など）
	7 月	進路ガイダンス（夏休みの学習） ジェンダー学習	進路ガイダンス（夏休みの学習） 校外体験学習（バス移動学習）
	8 月	調査研究（ジェンダー・人権・職業理解等）	
2 学期	9 月	ジェンダー学習	班別グループ学習
	10 月	ジェンダー学習（講演会） 人権学習	
	11 月	ジェンダー学習 進路ガイダンス（職業講話）	
	12 月	人権学習	
3 学期	1 月	ジェンダー学習 進路ガイダンス（分野別進路学習）	班別グループ学習 マナー講座
	2 月	人権学習	班別グループ学習 進路ガイダンス（分野別進路学習）
	3 月	進路ガイダンス（先輩の体験談）	年間の反省

⑪ 指導者の具体的な取組と生徒支援の状況

担任と副担任のチーム・ティーチングを原則とした。学年に関係する職員全員で取り組むことにより、職員の参加意識を高め、出張等で不在のときでも容易に対応ができるためである。打ち合わせの時間を確保することが必要であるが、慣れてくるにつれて、簡単な確認程度ですむようになった。生徒の把握、とりわけ適切な助言をしようとする場合には、一人より二人のチーム・ティーチングの方が有効である。

生徒の学習活動への支援は、導入時の指示や必要な場合の助言である。机間巡視しながら活動への参加を促したり、学習作業の進み具合について指示をすることが中心である。その時間のまとめについても、一方的な指示や押しつけにならないものにする。クラス内のグループ発表では、教師が進行役をする場合と生徒にまかせる場合と臨機応変に、教師側の判断で対応した。

⑫ 生徒の具体的な学習活動

(1) 1 学年

ジェンダー学習と人権学習の2つを核にして、進路ガイダンスも併行しながら学習活動を進めた。5～6人の固定グループを作らせ、基本的に毎時間そのグループで協同作業させた。グループごとの集合写真を教室に掲示するなど、グループ学習の意欲向上を図っているクラスもある。

ア ジェンダーについての学習

ジェンダーに敏感な感覚を持って自分の進路設計に臨ませたいというねらいで、昨年に引き続きジェンダーについての学習をした。実施した内容は下の予定表のとおりである。

【ジェンダーについての学習予定表】

回	月日	内 容
①	5/16	「テレビコマーシャル」をジェンダーを意識した視点から見る。【資料1】
②	5/30	「男の育休」についての新聞記事を読み、仕事と育児について考える。
③	6/27	「女性初の仕事・地位」について知り、「女性と職業」について考える。
④	7/15	「改正男女雇用機会均等法」について学ぶ。
⑤	9/12	「女性の職業第1号」のまとめと発表。
⑥	9/19	「あの人にインタビュー」準備。
⑦	10/4	講演「女性と職業」城西国際大学 福田順子教授。
⑧	10/31	「あの人にインタビュー」まとめ・レポート提出。【資料2】
⑨	11/7	「あの人にインタビュー」発表準備。
⑩	11/14	「あの人にインタビュー」発表
	11/28	アンケート・自己評価 【資料6】
⑪	1/9	ジェンダーについての学習をふりかえり感想を書く。

始めに資料1にある9種類のテレビコマーシャルを編集したビデオを見ながら、ジェンダーに偏りがあるかを考えさせた。改正男女雇用機会均等法についても考えさせ、大学の先生の講演を聞き、最後に「あの人にインタビュー」という活動を実施した。職業を持った女性にインタビューし、その結果をレポート（資料2）にまとめて、クラス内で発表するグループ活動である。身近な女性が働いている職場について聞き、実際にジェンダーに関してどんな問題があるのかを考えさせるとともに、ジェンダー学習のまとめとしての場にもなった。生徒たちがインタビューしたのは、看護師・助産師・教員・美容師・飲食店の店員・栄養士・調理師・デパートやコンビニエンスストアの店員などで、質問事項は、仕事の内容・給料・楽しいこと・嫌なこと、さらにセクシャルハラスメントや男女差別の有無などで、生徒が自分たちで考えた。結論として、仕事の内容が男女によって違うこと、男女差別



テレビコマーシャルで学習

は職場によって違うことなどが報告された。特に給料面に違いがあることに目を向けたグループが多かった。



発表の様子



模造紙に書いて発表

【資料1】コマーシャル一覧と使用したワークシート

CM	内 容
①	食品メーカーM (女性が料理、男性が食べる)
②	食品メーカーH (母親が料理、父親不在)
③	自動車メーカーT (男性が運転手で女性は助手席)
④	自動車メーカーT (女性が運転手)
⑤	自動車メーカーM (運転手を登場させない)
⑥	旅客関連会社 (男性ビジネスマンしか登場しない)
⑦	通信関連会社K (ビジネスマンとレジの性役割が伝統的)
⑧	通信関連会社N (職場は男性のみかと目や耳を疑う)
⑨	食品メーカーM (家事分担が性に偏っていない)

ジェンダーについての学習(その1) 平成14年5月16日(木)

テレビのコマーシャルを考える

1 朝ラテなら♪ 運転手の人か明るいこと、仲がいいこと

2 CM① → 母と息子が仲がいい CM② → 叔父さんがいないのせいで不思議な事かな子

男と女の役割分担 という視点で見ると、どう考えますか?

3 A サル生が料理をしている、それは普通に思えてしまっている。料理 = 母親

CM③ → 男の人が運転 CM④ → 女の人が運転

CM⑤ → と「どちらが運転しているかわからない。」

B 運転することは性別とは無関係である

4 CM⑥ → 男性が仕事を頑張っているなあ、 CM⑦ → お金のことに気を使っている

CM⑧ → 「〇〇の～」 おじさんの会社も生まれ変わったら?

CM⑨ → C 仕事 = 男性 という印象を強めている。

5 CM⑩ → D ジェンダーフリーを意図して作られたCM、ではない。男の役割をこえて

6 今日の感想と自分の意見(賛成や反対)を書いて、グループ内で発表してみよう。

女性と男性の役割が分業されているのはおかしい様な気もするけれど、別に悪いことではない気もある。おんが嫌がっているわけでもないから、差別とはまた違う気がする。でも、元々おかしい問題である。

「総合的な学習の時間」ワークシート(01) 1年組 番氏名

【資料2】

THEME 男女が同じ割合で働く職場

仕事内容：チェーン店 etc... の接客業

member	
佐藤 T	佐藤 H
佐藤 H	佐藤 T
佐藤 T	佐藤 H

質問次項 →

共通点 →

Q1: なぜその職場を選んだのか?	もともと趣味だった。興味があつたから。
Q2: 仕事をしていたころと感 じることは何ですか?	お客さんの気使い。 私生活との両立。
Q3: 仕事をしていたころと感 じることは何ですか?	お客さんがうれしいと感じている時。

⇒ 仕事が接客業だけに、お客さんを大切にしている事がわかります。
仕事だからと、でも、その仕事に興味や興味があつたこと、
今の自分が成り立っているんだという事を感じました。

おまけ 今の社会は自分より立場が上の社長、部長 etc... の人は男性が多いのは事実です。

その事に対し、印象の悪化を出してしまいました。

★昔の人はお茶やゴロとリをやるなどといったイメージを定着させず。

★お茶やゴロとリに対して目くばりをして、それぞれの仕事を認めて欲しい。

★男世平等に仕事をあたえて欲しい。

★女性の仕事範囲をせざるを得ないで欲しい。



改善点 →

★自分に仕事を任せて貰えるようにたくさんの仕事に積極的に取り組む。

★あるあることだけをこなすのではなく他の仕事にも目を向ける。

⇒ やはり上司というのは頼りやすく話しやすい存在であって欲しいものです。

「自分のために...」と云いつつ働く人は少なくないとは思いますが、理由としては「お茶やゴロとリ」が自分にとって大切な仕事に「ことごとく」思いました。

やはり仕事があつた人は何でもやるという風潮。

趣味探しに使う時間は決して短くはないけれど、自分のあつた仕事にも生かせるのである。

お茶やゴロとリの仕事は男性中心で、自分も女性第一手になつてやる。仕事の行動力。

組織の中の可能性を限界まで引き出すことが、行動範囲を広げられ、

男と平等の社会に近づける事ができるのではないだろうか。

イ 人権についての学習

校内の同和教育推進委員に協力してもらい、下の予定表にある活動を実施した。「総合的な学習の時間」以外にも、講演会など同和教育推進委員会主催の行事がある。

【人権についての学習予定表】

回	月日	内 容
①	6/6	「青い目、茶色い目」ビデオ視聴・感想記入。
②	6/13	「青い目、茶色い目」をもとに、「差別」について考える。
③	10/17	「若い女性と水夫の話」を読み、人の考えは千差万別であること知る。
④	12/16	「普通って何？」 偏見や差別について考える。
⑤	2/6	「障害者問題を考える」ビデオ視聴
⑥	2/21	「障害者問題を考える」講演・分科会

(2) 2 学年

1 学期は進路ガイダンスを中心にし、原則としてクラス単位で活動した。分野別進路体験学習では、分野別に 6 コースに分かれ、バス移動で学習した。2 学期には班別グループ学習を行い、生徒個人の興味関心のある分野に応じ 11 の班に分かれ、さらに 51 の小グループを編成した。グループごとの統一企画をたて、調査研究・まとめ・発表へと学習を進めた。

ア 分野別進路体験学習

クラス数・生徒数を考えてコースを 6 つに絞り、業者と打ち合わせしながら協力してもらえる学校・企業を選定した。6 月に生徒の希望調査を 2 回実施し、参加コースを最終決定した。バス料金は生徒の自己負担とした。4・5 月よりもバス料金は割安であった。

【コースの概略】

コース	人数	午前の訪問先 → 午後の訪問先
①大学・教育分野	44	城西国際大学 → (32) 植草幼児教育専門学校 → (12) 千葉工業大学
②家政・美容・調理	35	和洋女子大学 → (9) 千葉調理師専門学校 → (26) 東洋理容美容専門学校
③看護・福祉	35	帝京平成短大 → 成田国際福祉専門学校
④放送・芸術	37	東京スクールオブミュージック専門学校 → 日本工学院専門学校
⑤サービス A	45	成田航空ビジネス専門学校 → (株) ティーエフケー
⑥サービス B	31	国際トラベル&ホテル専門学校 → オークラ千葉ホテル

事前指導では、活動の目的をはっきりさせ、生徒の学習意欲を喚起するように配慮した。また、マナー面の指導も必要であった。事後指導として、報告書を提出させた。

各コースとも生徒たちの訪問先での評判は良く、時間厳守や服装、携帯電話の取り扱いなどの基本的なマナーは良くできていた。休日を利用しての個人的な学校見学も勧めているが、授業の一環としてそれが実施できたことは、生徒たちの学ぶ姿勢を喚起するのに有効だったと思われる。実施後のアンケート調査の結果、90%以上の生徒が「大変参考になった」や「まあまあ参考になった」という回答をした。



客室乗務員体験

イ 班別グループ学習

2 学期以降は班別グループ学習を行った。与えられたテーマでではなく、各自の興味関心に応じて、クラスを越えてグループを編成した。自分たちで企画して調査研究などをする活動を通して、教科学習だけでは得られない「力」を身につけさせることをねらいとした。

a 班別グループ学習のねらい

- (1) 自ら課題を見つける力をつける。
- (2) 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力をつける。
- (3) 情報の集め方、調べ方、まとめ方などを知る。

- (4) 報告や発表・討論の仕方などを知る。
- (5) グループで協同しての学び方やものの考え方を身につける。

b 実施計画

回	実施日	時間数	内 容
①	9/12	1	オリエンテーション（活動のねらいと流れを説明し、希望調査開始）
②	9/19	1	1 2 の班（ジャンル）の中から生徒が 1 つ選ぶ。【資料 3】 各ジャンルに関連する問題を生徒が設定し、各自が企画①をつくり提出する。【資料 4】 教員の顧問希望調査。
③	10/ 4	1	班ごとに集合し、企画①の内容に応じてグループ編成する。 グループ内の役割分担を決める（グループリーダー他）。 班長を決める。
④	10/17	1	グループ内で企画を一つに絞り込み、各グループで企画②をつくる。
⑤	10/31	2	↓
⑥	11/ 7	1	企画②に従って、調査研究をすすめ、レポートにまとめる。
⑦	11/14	1	↓
⑧	12/16	1	↓
⑨	1/ 9	1	レポート提出〆切 【資料 5】
⑩	1/23	2	レポートの書き直し・発表準備
⑪	1/30	1	班代表グループの発表。
⑫	2/ 6	1	反省

【資料 3】 1 2 の班と関連企画の例

班（ジャンル）名	内 容 と 企 画 例
1 経済法律班	自分の身の回りの経済や法律に関する問題をあつかう。 例）景気回復、税の仕組み・コンビニ・少年犯罪 など
2 家族家庭班	家族関係の変化・家庭の役割などに関する問題をあつかう。 例）親子の関係、核家族・一家団らん・食事 など
3 国際社会班	国際社会に関する問題をあつかう。 例）国際テロ・民族問題・語学を生かした職業・国際協力 など
4 教育文化班	教育や文化に関する問題をあつかう。 例）ゆとり教育と学力低下・生涯教育・学校週5日制の問題 など
5 マスコミ班	報道や出版などのマスコミに関する問題をあつかう。 例）テレビの功罪・被害者の人権・表現の自由 など
6 医療福祉班	医療や福祉に関する問題をあつかう。 例）医療ミス・院内感染・介護保険制度・高齢化社会と運動 など
7 先端技術班	日々進歩発展しつつある先端技術に関する問題をあつかう。 例）携帯電話・クローン人間・バイオテクノロジー など
8 環境班	広く環境に関する問題をあつかう。 例）ゴミ問題・遺伝子組み換え・安全な水・地球温暖化 など
9 エネルギー班	エネルギーに関する問題をあつかう。 例）発電のすべて・身近な省エネ・風力発電 など
10 住居班	生活の場としての住居に関する問題をあつかう。 例）日本の住居・バリアフリー住宅・住宅と緑地 など
11 交通班	交通に関する問題をあつかう。 例）高速道路・空港・ETC・都市交通・運転手 など
12 情報班	情報に関する問題をあつかう。 例）コンピュータの高速通信化・e-ビジネス など

【資料 4】 班別グループ学習 希望調査

班別グループ学習 希望調査（企画①）

教科学習や日常生活の中で疑問に思っていることはありますか。もっと詳しく知りたいと思っていることはありますか。機会があれば調べてみたいようなことはありますか。

今回は、自分の一番興味関心がある話題・問題をとりあげ、企画①にまとめよう。企画①の内容に応じてグループが決まります（仲良しの友達と一緒にとは限りませんよ）。自分一人ではできなくても、何人かで分担すれば予想以上の成果が得られるかもしれません。

【注意】

※1 友達同士で全く同じ企画をすることはさけること。

※2 キーワードとは

自分の研究したいテーマに深く関連のある言葉。たとえば、携帯、ゴミ、水、英語、発電など。

※3 調査手段に「聞き取り調査」を必ず入れること。

授業中に校外へでることは原則としてできません。放課後や週末を利用して校外での調査をすること。マナーに気をつけて調査すること。

※4 記入例

氏名	組 番
班	4 教育文化班
キーワード	子供
題名	子供の遊び
内容	小学生の放課後の遊びについて、その内容と時間について学年比較をする。
社会との関わり	小学校を訪問し、聞き取り調査とアンケート調査をする。地域の児童館を訪ねし小学生の利用状況を知る。
調査手段	インターネット、訪問調査、専門書
発表方法	模造紙にグラフなどを記入して発表。ビデオや写真も利用したい。
企画の目的	子供の遊びの変化について知りたい。
グループ人数	5～6人を希望

↓ 切り取って提出してください。 ↓

氏名	組 番
班	
キーワード	
題 名	
内 容	
社会との関わり	
調査手段	
発表方法	
企画の目的	
グループ人数	人 ～ 人を希望

提出日: 9月19日(木)5限終了時

c 実施内容

9月12日のオリエンテーション（学年集会）で上にあげた学習のねらいを説明し、希望調査を行った。**資料3**にあげた例を参考にして生徒は自分の企画を立てた（**資料4**）。提出された企画①の内容に応じて班分け・グループ分けを行った。「マスコミ班」と「情報班」については、少人数であったが希望をそのまま生かした。ただし、グループ学習を原則としているため、1名だけの企画の場合は希望変更してもらった。**資料3**の企画例に影響を受けすぎてしまったせいか、類似の企画が多く、独創的な企画があまりなかった。また、「エネルギー班」の希望がなかったことは残念である。

【班別グループ学習組織表】

班別グループ学習 組織表									
No.	班(ジャンル)	人数	班長	グループ数	グループリーダー	構成人数	企画	顧問	
1	経済法律班	17		5	01A	3	少年犯罪について		真下
					01B	2	短絡的犯行と罪の意識		
					01C	4	少年犯罪の今を追う		
					01D	4	コンビニの品揃え		
					01E	4	コンビニの便利さ		
2	家族家庭班	31		6	02A	5	家族関係		宮崎田邊
					02B	4	家族		
					02C	3	食生活		
					02D	8	親子の関係		
					02E	5	家族について		
					02F	6	年齢別の家族への愛		
3	国際社会班	41		8	03A	5	日本の民族		木内成田
					03B	5	今も続いている戦争		
					03C	4	民族について		
					03D	6	テロの歴史		
					03E	6	テロ ～アルカイダ～		
					03F	3	世の中の事件		
					03G	6	国際テロ		
					03H	6	平和 ～peace～		
4	教育文化班	36		8	04A	4	子供のあそび		加瀬健長崎
					04B	4	幼稚園と保育園の違いと子供の様子		
					04C	5	保育園での生活と遊び		
					04D	5	週5日制について		
					04E	7	週5日制になってからの変化		
					04F	4	子供の成長		
					04G	4	他校の生徒の生活		
					04H	3	日本とアメリカの孤児院		
5	マスコミ班	4		2	05A	2	TVのイイとこ悪いトコ		増田
					05B	2	日本人がいま求めている本		
6	医療福祉班	19		4	06A	4	一日の生活と生きがいについて		畔蒜
					06B	5	介護施設について		
					06C	5	医療ミスについて		
					06D	5	生命の誕生		
7	先端技術班	19		5	07A	2	宇宙生活		鵜澤
					07B	3	携帯電話		
					07C	4	携帯電話		
					07D	5	携帯使用時の悪影響		
					07E	5	携帯電話		
8	環境班	22		4	08A	5	ゴミと環境破壊		中山
					08B	6	空気の汚れ		
					08C	6	地球温暖化		
					08D	5	一般廃棄物の種類・問題・活用etc		
9	エネルギー班	0		0		0			
10	住居班	15		4	10A	3	日本の家について		増田
					10B	3	欠陥住宅について		
					10C	4	バリアフリー住宅		
					10D	5	バリアフリー住宅		
11	交通班	15		4	11A	6	道路		伊藤聡
					11B	4	人と電車		
					11C	3	電車内のマナーについて		
					11D	2	地元		
12	情報班	5		1	12A	5	コンピュータウィルス		伊藤聡
合 計		224		51		224			12

学年職員で各班の顧問をし、上の組織表にあるように、人数の多い班は2名の顧問をつけ、少人数の班については1人の顧問が2つの班を担当した。顧問1人あたりの生徒数は20名前後である。普通教室や演習室などを活動場所とし、そこに生徒が移動するようにした。

11月の2回については、コンピュータ室と図書室の利用を希望に応じて割りふり、どちらか1時間はインターネットを利用したり、学校図書を利用できるようにした。もちろん放課後のインターネット、学校図書の利用は可能である。



コンピュータ室でインターネット検索

【資料5】 レポートの1例（書き直し前）

() () 食生活 () 班		※グループ (02)	
メンバー	班長	組 長 氏 名	組 長 氏 名
	書記	組 長 氏 名	組 長 氏 名
	副班長	組 長 氏 名	組 長 氏 名
	副書記	組 長 氏 名	組 長 氏 名
題 名 食生活について			
目 的 最近食生活がよくなっている人が多いから調べた。			
研究・調査結果 「食生活について」100人にアンケートをしました。 ① 1日に何食食べているか？ → ①位 3回 (78人) ②位 2回 (18人) ③位 1回 (4人) 1日に2食だと答えた人について食事の量を聞いてみると朝が多かった。 ② 夜ごはんは何時に食べていますか？ → ①位 7時 (17人) ②位 6時 (23人) ③位 8時 (4人) ③ 月に何回位外食していますか？ (17人) (23人) (4人) ④ ①位 4~6回 (58人) ②位 10回以上 (35人) ③位 0~3回 (7人) ④ 間食をしますか？ → Yes (92人), No (8人) ⑤ 自分はバランスを取れているかと思っていますか？ Yes (6人), No (94人) Noだと答えた人になぜだと思える理由を聞いてみると、 ① おかしを食べてしまうから。 ② フードやジュースの飲み過ぎ。 ③ 好き嫌いが多いから。 ④ あまり休めない。 ⑤ 栄養が足りないから。 ⑥ 牛乳をのまない。 ⑦ ダイエットをしているから。 ⑧ インスタントが多いから。			

視点を変わると・・・

賛成側の立場で考えると

- 間食をする。
- 朝食を食べない。
- 野菜を食べない。
- 女子きらいが多い。
- フードやジュースの飲み過ぎ。
- 偏食をしている。
- カルシウムが足りていない。

反対側の立場で考えると

賛成の意見を見ると毎日2人なふうに生活していると、生活習慣病になりやすくなってしまいます。生活習慣病の中の大きな病気は、心臓病、脳卒中、糖尿病などです。だから、毎日の生活をきよく正しくした方がいいと思います。

ジェンダーフリーの視点から

私たちはこう思う・・・

結果を見て、皆間食をしたり、野菜を食べなかったりして、とても栄養がよくなっていると思いました。生活習慣病だけでなくいろいろな病気などになりやすいため、栄養がある、物を食べ適度な運動をしたり、3食きちんと食べるように心がけた方がいいと思います。

学校外での訪問調査などについては、授業時間外に休日や放課後を利用することにした。したがって、授業中は調査の計画やアンケート用紙を作成したり、調査したことをまとめることが中心となる。

あらかじめレポートの様式を示し、調査研究したものを全てのグループが同じ様式でまとめられるようにした（資料5）。1年生の時に学習した「ジェンダー」との関わりも考えさせる内容で、学習に継続性をもたせた。ワープロでのレポート作成を希望したグループにはレポートの様式を入れたフロッピーディスクを配布した。

現在3学期に入り、レポートの書き直しや発表準備をしているところである。模造紙に書いて発表するグループや、パワーポイントを利用する予定のグループもある。

⑬ 1年間を振り返っての成果と課題

（1）「総合的な学習の時間」の配当時間について

本校では「総合」を毎週木曜日の5時間目に実施することを基本にした。教員の出張等がほとんどなく、生徒の指導、特に班別グループ学習の顧問としての指導に有効であった。

しかし、6時間目がLHRであるため、木曜日の午後は学校行事（防災訓練・生徒会役員選挙など）になる場合があり、定期的に「総合」を実施できないときがある。また、「総合」とLHRが午後に連続することは特に担任にとって大きな負担になる。したがって、「総合」はLHRとは別の曜日に実施することが望ましいと思われる。2時間連続や校外学習などの場合には授業変更で対応することになる。

（2）効果的な指導と評価について

ア グループワーク

1学年では5～6人のグループをつくらせ、常に同じグループで活動させた。生徒同士の人間関係をうまく保つことが難しいグループも年度途中であったようだが、教員の指導もあり年間通してグループ活動できた。

2学年では、班別グループ学習で2～8人のグループになった。クラスを越えたグループ編成も若干できたが、生徒の興味関心に応じて編成されたグループであるため、グループリーダーを中心にまともには概ね良好であった。ただし、半年近くの長期にわたる学習活動を上手に進めていくことは、個人でそれを行うよりもかなり難しいことだと実感した。繰り返し訓練する必要性を感じる。

イ 多様なテーマ設定

昨年度は反省の一つとして、「与えられたテーマから自分で選択したテーマで学習する」必要性をあげた。2学年では班別グループ学習をとおして、多様なテーマで学習する機会が与えられた。1学年でも、ジェンダーという大きなテーマはあったものの、個々の学習活動の中である程度自由に調べることができるようにした。「女性の職業第1号」を調べる活動では、「今まで知らなかったことばかりだった（生徒の感想から）」ことを知る喜びを感じた生徒がいた。「あの人にインタビュー」の活動を通してもっと「いろいろな仕事の人にインタビューしてみたいと思うようになりました。（生徒の感想から）」というように、職業についてもっと知りたいという意欲を持った生徒が出てきた。学ぶ喜び・知る喜びが実感できる学習活動として、生徒の選択の余地を十分に残した学習活動を設定する必要がある。

ウ レポート作成・発表

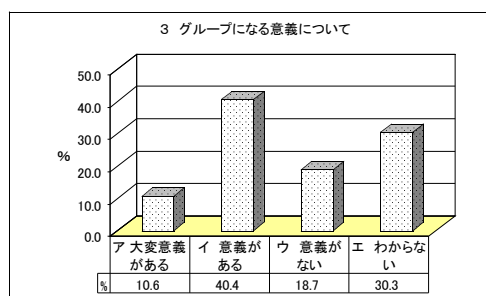
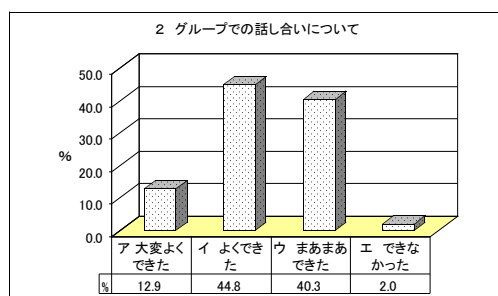
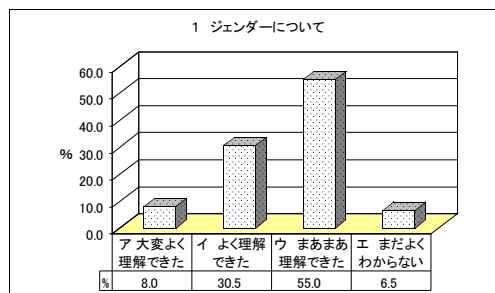
学習したことをレポートにまとめることは、個人でも協同作業でも共に大切な活動と考え

る。協同作業には時間がかかるが、まとめるまでのプロセスの中で協調性や相手を理解する気持ちなどを学ぶことができる。さらに、クラスや学年で発表することはそれなりに準備が必要である。今年度は準備時間を確保し発表に力を入れた。1学年では模造紙に書いて発表したグループが多く、そのためか発表者を見て聞いている生徒が多かった。教員の工夫で質疑応答もきちんと実施できたクラスもあった。昨年度よりも準備に時間をかけたために、発表の工夫がなされていた。

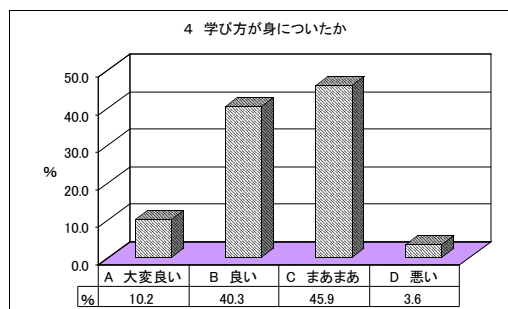
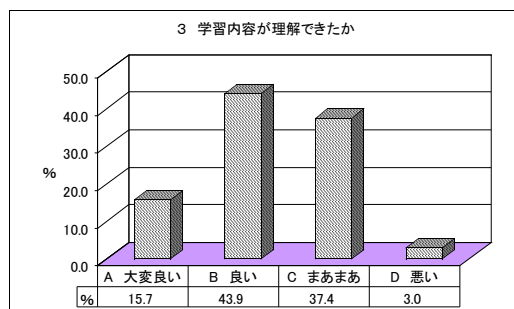
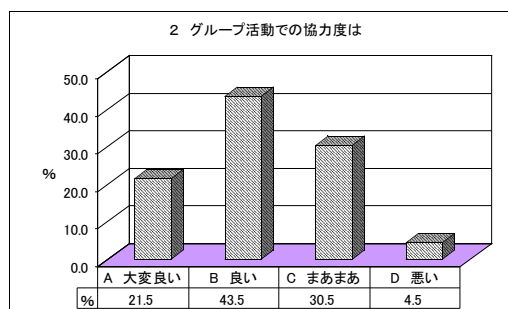
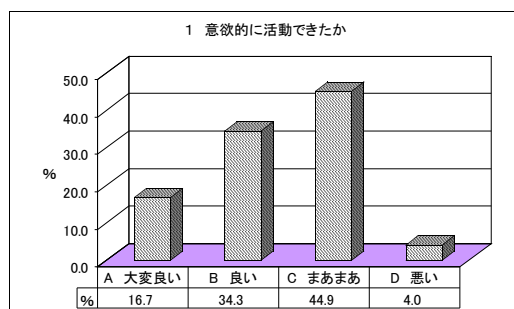
【資料6】 アンケート・自己評価の集計結果グラフ

ジェンダー及びグループ学習についてのアンケート結果

1学年216名 回収201名(93.1%) 11月28日実施



自己評価(1・2学期の活動をふりかえって)集計グラフ



エ 評価

1 学年では今年度も自己評価をさせ、自分の活動を振り返らせた。学習活動の中で使用したワークシートや資料を全て順番にクリアファイルに保存させ、自己評価時に使用した。自己評価の集計（資料6）から見て取れるように、「まあまあ」という自己評価をする生徒が目立つ。いい加減に甘く自分を評価する生徒が多いと思いがちであるが、意外に遠慮がちに又はある意味で正直に自己評価する目を持っているようである。

2 学年では班別グループ活動の中で、「活動メモ」用紙を持たせ、毎時間自分がやったことをメモさせ、その時の頑張り具合を4段階で自己評価させた。この集計はしていないが、時々見てみると、割合正直に自己評価している。

各学年とも、生徒はグループ学習で仕上げたレポートや発表の様子、また個人のワークシートやレポート、活動メモなどをクリアファイルに保存している。これらの資料をもとに、担任が中心となり、記述形式で「総合」の最終的な評価を通知票及び指導要録に記載することになる。

（3）進路設計への積極的な態度について

ア 自己の在り方生き方

自己の在り方生き方をどれだけ考えたかをみることは容易ではない。生徒が書いた感想の中に次のようなものを見つけた。

- ・「一番印象に残っているものは『働く女性』の学習です。自分達で自主的にテーマを考え、積極的に調べたという理由もありますが、私達にもいつかはかかわってくる問題だからというのが一番主な理由だと思います。」
- ・「授業中目にとまった記事にこういう言葉があった。『私はこれから進出してくる女性のために道を開きたいのです。』この言葉に私は感動したのをおぼえている。そして、『私もその後に続かなくてはいけないのだ』としみじみ感じさせられた。」

このような感想を持った生徒は少数かもしれないが、今おかれている自分の状況とこれからどう生きていくべきかを考えた生徒は確かにいたことが分かる。今年度の学習活動を通して、生徒たちが今後の生き方を考えるきっかけをつかむことができれば良いと考える。

イ 教科・科目の学習に及ぼす有効性

「総合的な学習の時間」の創設によって、従来の教科・科目では学び得なかった進路学習に主体的に取り組むことが可能になったと思われる。同時に、進路学習をきっかけとして教科・科目の学習の必要性にも気づかせていかなければならないと考える。これについては、継続課題として今後も研究を続けていきたい。

⑭ 今後の総合的な学習の時間の運営計画

（1）運営方法の検討

「総合的な学習の時間」研究推進委員会の指導のもと、学年を中心にした効果的な運営について検討する。

（2）シラバス作成

2年間の研究をふまえ、全学年での実施に係る諸問題を検討し、3年間を見通した各学年ごとのシラバスを作成する。

（研究主任 渡邊範夫）